

10年前の書きぶり（4次長計）		
構想レベルの課題	構想レベルの方針	方針に基づく基本事業（参考）
① 急速な高齢化や平均寿命の伸長、食生活の乱れ、不規則な生活の広がりなどを背景として、国民全体の疾病構造の中心は、感染症から生活習慣病へと大きく変化しています。	・ノーマライゼーションの理念に基づき、障害者やその家族が住み慣れた地域で安心して生活していくためのサービスや、社会参加に向けた支援を進めます。  ・関連機関との連携のもと、障害の特性に応じた情報の内容と提供手段の充実に努め、福祉サービスを円滑に利用できる体制づくりを進めます。	<input type="checkbox"/> 日常生活への支援 ・障害者や難病患者などへの福祉サービス ・ノーマライゼーションの理念をより浸透するための啓発活動 ・公共施設などのバリアフリー化の推進
② 市民一人ひとりが日頃から、自らの健康は自らで守るという意識を持ち、主体的に健康づくりに取り組むことが大切です。		<input type="checkbox"/> 日中活動への支援 ・障害者等の就労・定着支援 ・障害者の工賃向上への支援 ・障害者などの社会参加への支援
③ 市民の健康を支えるための正しい情報の提供や、地域で支えあって生活習慣を改善していく仕組みづくりが必要です。		<input type="checkbox"/> 障害児への療育支援 ・乳幼児健診や発達検診などの早期療育の推進 ・障害児とその家族への切れ目ない相談支援体制の整備 ・わかかさ学園を拠点とした地域との交流
④ すでに迎えた超高齢社会において、保健、医療、福祉の連携により、生涯を通じ、健やかで安定した生活が求められます。		

10年経った今では

5次長計	
基礎調査等から抽出した課題などを書き出しています	今の課題、方向性に対するキーワードは
<p>【施策の評価・検証より】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障害者の自立と社会参加を支えるためには、障害者自らの自由な選択と意思決定を尊重する地域づくりが必要である。</li> <li>・ 親なき後を見据えた対策として、特に知的障害者のニーズが高い障害福祉サービスのグループホームについては、第5期障害福祉計画に沿って整備を進める必要がある。</li> <li>・ 医療費については、心身障害者医療費助成、難病医療費助成、自立支援医療の助成により、経済的負担を軽減するように支援している。</li> <li>・ 日中活動の支援においては、就労面と生活面の支援を一体的に提供し、障害者の就労意欲の向上と一般就労促進を図る必要がある、</li> <li>・ 障害特性の理解に向け、意識啓発とその周知が求められる。</li> <li>・ 障害者の一般就労・定着に向けて、就労支援室が中核的施設としての役割を担い、協力企業と共に支援を行っている。</li> <li>・ 障害者の工賃向への支援のため、障害者優先調達方針に基づき、障害者就労施設等からの物品等の調達を増やすように努めている。</li> <li>・ 障害児の切れ目のない支援の実施に向け、児童発達支援センターを考慮に入れた「地域支援体制の構築」「障害児相談支援の提供体制の確保」について検討を進めている。</li> </ul> <p>【基礎調査データより】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 身体障害者手帳保持者の内、1級が最も多い。</li> <li>・ 知的障害者の方に交付される愛の手帳保持者の状況は、4度（軽度）が最も多い。</li> <li>・ 自立支援医療（精神通院）受給者数は増加傾向にある。</li> </ul> <p>【市民・団体アンケートより】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本施策に市民の16.1%が満足、17.3%が満足していない。</li> <li>・ 本施策を68.8%の市民が重要と考えている。</li> <li>・ 市民が考える優先すべき取組みとして、「地域での自立した生活の支援」、「障害児とその家族への切れ目のない支援体制」、「障害者の就労に対する理解促進」、「公共施設のバリアフリー」の順で高くなっている。</li> </ul>	<p>ご意見を準備していただくためのメモ欄です</p> <p>■日常生活への支援では、</p> <p>■日中活動への支援では、</p> <p>■障害児への療育支援では、</p> <p>■このテーマに欠けている視点は、</p>